



## アカテガニが、川からはなれた所で見つかるのはなぜなの

### カニは、えらに水を通して息をしている

カニはふつう、魚などと同じように、水にとけた空気(酸素)を、えらで体の中に取りこんで呼吸をしています。カニのえらは、両足のつけ根部分の殻の内側にあり、鳥の羽のように見えます。水中では、はさみのついた足のつけ根のこうらのすき間から、水がえらの方へ送られます。えらの間を通して酸素が吸収されたあとの水は、口の上の方にある、二つの出水こうから、体外へ出されます。

### アカテガニは同じ水を使いまわす

アカテガニは、この出水こうから出てきた水が、殻の表面にあるみぞを伝わって、また足のつけ根に流れるようになっていのです。殻の上を流れている間に、水中の二酸化炭素が出ていき、新しい酸素がとけこみます。こんな方法で、少ない水をうまく使いまわして、水の中でなくても、平気で生活しているのです。また、足のつけ根のすき間をおしつけて、湿った地面などからも、わずかな水分を吸収することができるので、川からはなれた所にいることができるのです。陸ガニとよばれる仲間が、このような方法で呼吸しています。

でも、何回か行っだっ皮や、産卵のときだけは、水がなければできません。だっ皮は川でできますが、産卵のときだけは、アカテガニは、はるばる海まで出かけてます。

### カニがあわをふくのは、こうふんしているとき

アカテガニがこうふんしたときは、このえらを通る水にねばり気が出てきます。そのとき、体に空気が取りこまると、石けん液に空気を送りこむのと同じように、あわがぶくぶく出て、あわをふいているようになります。(監修・中山 周平)

